

9 質問紙調査結果の特徴

※ 抽出した質問項目は、国が注視している学校における指導等と学力等との関係や、児童・生徒の学習・生活習慣と学力との関係に関連した内容を表記  
 ※ 回答数値は、質問項目に対して肯定的な回答の割合(単位は%) ※回答内容は、平成25年度の状況に関する調査

平成26年 9月26日  
 調布市教育委員会指導室

(1) 小学校

① 児童の回答 ※網掛けの項目は、国もしくは都の割合を下回っている内容

	質問項目	調布市	東京都	国
1	国語の授業内容は、よく分かる。	84.1	81.4	80.1
2	算数の授業内容は、よく分かる。	82.8	82.0	79.6
3	授業の始めに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う。	81.6	82.0	82.0
4	家で学校の授業の復習をしている。	52.2	48.0	54.0
5	先生は、あなたのよいところを認めてくれると思う。	80.1	78.5	79.7
6	学校生活で、友達関係など何か悩みを抱えても、誰にも相談しない。(反転項目)	21.6	21.4	20.5
7	新聞をほとんど、または、全く読まない。(反転項目)	44.6	50.5	50.4
8	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。	60.8	57.8	55.6
9	普段(月～金曜日)、1日当たり、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)を1時間以上している。(反転項目)	47.6	51.1	54.7
10	普段(月～金曜日)、1日当たり、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを1時間以上している。(反転項目)	12.7	15.3	15.1

② 学校の回答

	質問項目	調布市	東京都	国
1	教員は、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け、児童に伝えるなど積極的に評価した。	85.0	95.9	96.9
2	教員は、学習方法(適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど)に関する指導をした。	90.0	97.3	97.4
3	教員は、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底した。	85.0	94.9	96.2
4	教員は、各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けた。	80.0	85.7	90.2
5	教員は、授業の冒頭で目標(ねらい・めあて)を児童に示す活動を計画的に取り入れた。	95.0	97.4	96.9

③ 小学校における各教科の調査結果及び質問紙調査結果について(考察と課題解決のための改善策)

○ 国語・算数に共通していることは、授業内容の理解状況について国や都を上回っている。基礎的・基本的な内容の指導を徹底したり、習熟度別指導を行ったりするなど、個に対する指導の工夫が図られたと推測されるからである。

○ 普段(月～金曜日)、1日当たり、テレビゲームや携帯電話、スマートフォン等の利用について、1時間以上使用している児童の割合は、国や都を下回っているが、家庭・地域と連携した情報モラル教育の推進が必要と考える。

● 授業の冒頭で目標(ねらい・めあて)を児童に示している割合については、両者(児童側と教員側)の視点で国や都を下回っており、課題と言える。また、学習規律や学習方法を児童に身に付けさせるよう、指導の徹底が必要である。

■ **国語における課題解決のための改善策**

【言語事項】: 故事成語に限らずことわざや慣用語の理解については、意味を理解するだけでなく、短文を作り、適切な表現であるかを話し合ったり、日常の表現活動の中で効果的に取り組んだりしていく指導の工夫が必要である。

【話すこと・聞くこと】: 語の大事な部分を気をつけて聞いたり、自分の意見と比べながら聞いたりするなど、「聞く」指導を重視するとともに、児童の発達段階を踏まえたペアやグループ学習等、人数に配慮した指導の工夫が必要である。

■ **算数における課題解決のための改善策**

【共通指導事項】: 児童の実態に応じた習熟度別指導と個に応じた立ち戻る指導の徹底を図る。

【図形】: いろいろな図形を実際に見たり、触ったりしながら、それぞれの図形の特徴に気付かせる算数的活動の充実が必要である。また、図形の特徴を踏まえた作図方法を児童の実態に合わせて丁寧に指導する必要がある。

【数量関係】: 問題場面を正確につかませるため、数量関係を図に表し関係を視覚的に捉えさせたり、□を用いて式に表し文脈どおりに関係を捉えさせたりする指導の工夫が必要である。

(2) 中学校

① 生徒の回答 ※網掛けの項目は、国もしくは都の割合を下回っている内容

	質問項目	調布市	東京都	国
1	国語の授業内容は、よく分かる。	75.1	73.8	72.0
2	数学の授業内容は、よく分かる。	77.3	72.9	71.5
3	授業の始めに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う。	64.1	67.2	71.5
4	家で学校の授業の復習をしている。	50.3	47.6	50.4
5	先生は、あなたのよいところを認めてくれると思う。	75.0	72.6	74.1
6	学校生活で、友達関係など何か悩みを抱えても、誰にも相談しない。(反転項目)	28.3	29.1	26.6
7	新聞をほとんど、または、全く読まない。(反転項目)	62.4	63.0	59.4
8	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。	65.2	65.3	62.9
9	普段(月～金曜日)、1日当たり、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)を1時間以上している。(反転項目)	51.2	55.7	56.4
10	普段(月～金曜日)、1日当たり、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを1時間以上している。(反転項目)	48.1	52.3	47.7

② 学校の回答

	質問項目	調布市	東京都	国
1	教員は、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け、児童に伝えるなど積極的に評価した。	87.5	95.0	96.5
2	教員は、学習方法(適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど)に関する指導をした。	100.0	95.8	97.1
3	教員は、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底した。	100.0	96.6	96.6
4	教員は、各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けた。	75.0	78.9	84.9
5	教員は、授業の冒頭で目標(ねらい・めあて)を生徒に示す活動を計画的に取り入れた。	62.5	89.5	94.0

③ 中学校における各教科の調査結果及び質問紙調査結果について(考察と課題解決のための改善策)

○ 国語・数学に共通していることは、授業内容の理解状況について国や都を上回っている。基礎的・基本的な内容の指導を徹底したり、学習規律や学習方法を継続的に指導したりするなど、学習環境の構築が図られたと推測されるからである。

● 授業の冒頭で目標(ねらい・めあて)を生徒に示している割合については、両者(生徒側と教員側)の視点で国や都を大きく下回っており、大きな課題と言える。

● 普段(月～金曜日)、1日当たり、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを1時間以上行っている生徒の割合は、国を上回っており、家庭・地域と連携した情報モラル教育の推進が必要と考える。

■ **国語における課題解決のための改善策**

【話すこと・聞くこと】: 目的を明確にして、話し手の意図を捉えながら聞いたり、相違点を整理しながら聞いたりするなどの言語活動の充実を図るとともに、生徒の考えを対比させて表にまとめるなどの板書の工夫が必要である。

【読むこと】: 文章の展開や構成を捉えながら、筆者の意見や考えを正確に読み取るために、「問い」をもって読ませたり、板書によって、筆者の主張を比較・関連付けて捉えさせたりする指導の工夫が必要である。

■ **数学における課題解決のための改善策**

【共通指導事項】: 生徒の実態に応じた習熟度別指導と個に応じた立ち戻る指導の徹底を図る。

【資料の活用】: 資料の分布の様子を表やグラフに表現することの効果(よさ)を味わわせるためには、パソコンなどを利用し表やグラフを作成させたり、その結果を基に資料の傾向を説明させたりするなどの指導の工夫が必要である。

【図形】: 与えられた条件を図や表に整理させたり、既習事項を振り返らせ、問題となる図形の特徴を確認させたりするなどの指導の工夫が必要である。